



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学



和歌山大学 南紀熊野サテライト 2021年度 事業総括書

2022年3月

和歌山大学 南紀熊野サテライト

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2021 年度

目 次

1、はじめに

南紀熊野サテライト 2021 年度の事業概要と課題	1
---------------------------	---

2、具体的活動成果・事業実施状況

【1】 高等教育部門／授業実施状況／主催講座関係	3
【2】 生涯学習部門／高大連携部門	9
【3】 地域研究／学生、同窓会活動支援	10
【4】 地域連携／産学官連携部門／地域からの相談	11
【5】 運営基盤の強化／大学間連携／研修／広報活動	11

3、あとがき

4、参考資料（ 広報チラシ一覧、新聞掲載資料一覧 ）

はじめに

◆設置 16 年！サテライトで学んだ社会人学生が地域の中核となって活躍！

和歌山大学南紀熊野サテライトは、2005 年 4 月に「地域型サテライト」として設置後 16 年が経過。サテライトで学んだ**社会人学生が、地域の中核**となって活躍している。また、講義を受けた後に地域で講師側になって活躍するなど、**後進の人材育成をする側になり知識の循環**に繋がっている。

高等教育では、地域ニーズから、内容、時間、場所を変更するなど受講しやすい改善をしている。体系的な地域学の学習機会を継続設置している。地域特有の資源を保全活用する活動から、持続可能な地域社会へ向けた教育機会を提供している。連携協議会企画運営会議では、今後目指すべき 6 年間の方向性と具体的な取り組み案、アクションプランの成果指標を「**みらい戦略 四期計画**」として、委員と策定している。

急速に変化する知識社会において、地域の知の拠点として、各プラットフォームを連携する地域ステーションの役割を担えるように教育、研究、社会貢献の活動を推進している。

本報告書において 2021 年度事業を総括する。

◆2021 年度の特長・課題（※期首に定めた重点項目の取り組みから）

【事業の特徴】

（1）実践力のある人材育成、ニーズに合った多様な学習機会を設置。

地域学「熊野郷土学 2D」、人材育成に資する寄付講義「世界農業遺産」、「地域づくりの理論と実践」。コロナ禍での学習ニーズに対応してオンライン配信、野外フィールドを活用した教育機会を設置。今年度は「**世界農業遺産梅システムマイスター**」14 名誕生、受講後も活動支援している。

（2）高校との連携強化

「**大学授業の公開制度**」を利用して今年度は**高校生 20 名**が利用。

（3）学生、教員の地域交流活動の支援、教育研究の支援、地域情報の提供

学生や教員の調査研究に必要な**地域情報を提供**。**地域での活動支援**を実施。

（4）産学連携、共同研究、教育研究プロジェクトの支援

他大学や学内の**調査研究を推進**（木育普及事業など）

【今後の課題】

（1）教育・研究・社会貢献による地域発展モデルの構築と更なる連携で「**知の循環**」を構築。

（2）地域活動の支援体制の強化に向けて情報共有と活用を推進。

（3）サテライトを拠点として、地域で活動する学生、同窓会組織、小中高大等の交流推進に貢献。

（4）学内外へ、大学活動の理解向上のための戦略的な広報活動。

以上

【1】高等教育部門／授業実施状況／主催講座関係

1-1 高等教育（大学院・学部授業）関係

大学院受講者7科目延べ68名（修士課程含）、学部受講者7科目延べ294名（高校連携含）合計362名

令和3年度 南紀熊野サテライト受講生申請状況一覧

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	大学生	高校生	
大学院	前期	マクロ経済学	荒井 信幸	経済学部	1	9		10
		異文化コミュニケーション	遠藤 史	経済学部	4	2		6
		農業経済学	岸上 光克	食農総合	5	7		12
		経営史	長廣 利崇	経済学部	5	6		11
	後期	経済社会トレンド	阿部秀二郎	経済学部	6	9		15
		民法	吉田 雅章	経済学部	6	0		6
		地域統合論	高田 公	経済学部	5	3		8
					合計			68

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計	
					サテライト	大学生	高校生		
学部	前期	地域暮らしの法律学D	吉田 雅章	経済学部	5	8	0	13	
		「人生論」の哲学	天野 雅郎	教養の森	14	28	0	42	
		コロナ後の世界に暮らす	金川 他4名	オムニバス	7	53	0	60	
	通年	地域づくりの理論と実践B	藤田 武弘	観光学部	10	13	1	24	
	後期	囲碁とコミュニティ創生	藤永 他3名	オムニバス	6	49	0	55	
		世界農業遺産	原 他3名	オムニバス	7	15	9	31	
		熊野郷土学2D	此松 他5名	オムニバス	20	39	10	69	
						計			294

※オムニバス（学部複合での開催の意味）

合計	362
----	-----



大学院授業の様子（田辺市）



学部開放授業の様子（みなべ町）

《実施概要》 ※特徴的なものを赤文字表記する。

①大学院科目の概要

《今年度から経済学研究科の開設科目を1科目1単位制に変更》

経済学研究科の科目を年間7科目設置している。今年度から1科目1単位。

前期科目「マクロ経済学」では、統計資料の読み方や政府のデータから日米のマクロ経済のデータを比較分析した。「異文化コミュニケーション」ではグローバル化が進む現代社会において、国際的ビジネスや研究交流の場での文化的衝突や誤解を避けて互いの文化に適切な理解を持つために異文化コミュニケーションの知識を学んだ。「農業経済学」では、食料時給や農産物貿易等の「食」と「農」をめぐる社会経済問題を経済学の視点から理解した。「経営史」の授業では、江戸時代から高度経済成長期までの日本を中心とした企業経営の歴史を学び、現在の企業戦略、組織形成、ケーススタディによる個別企業や企業家の活動を検討した。



大学院授業の様子（田辺市）

後期科目「経済社会トレンド」では、複雑化する現代社会において大きな影響を及ぼしている諸現象に関して俯瞰して、経済社会への影響を具体的に解説。経済力の変化、人口動態の変化、都市化、地域間格差、技術革新、気象変動や資源問題に関してどのような対応が可能か議論した。「民法」では、債権の契約と不法行為を中心に近年の学生と判例に関して検討した。DVDやテレビドラマを活用して生活に不可欠な法律と民法を学んだ。「地域統合論」では世界的に自由貿易協定などの地域統合が活発化していることを受け、欧州連合（EU）の前身の創設から60年間以上にわたる地域統合の過程において領域拡大や関税同盟、農業共同市場などから単一市場、通貨統合に至るまで統合の内容の深化を学んで、現代的課題である移民や経済政策や対外政策について学習した。



大学院授業の様子（田辺市）

②学部科目の概要

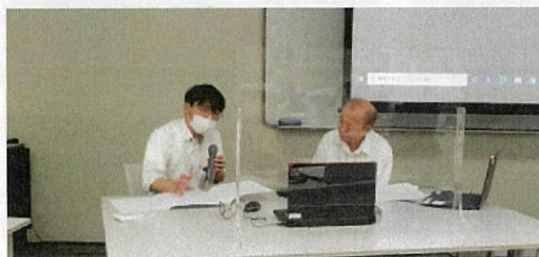
《コロナ後の世界に関する科目、ジオパークや世界農業遺産など地域産業、資源活用の科目を開設》

地域ニーズを反映した授業編成で体系的な学びの機会として設置。南紀熊野地域の諸課題に対する地域ニーズの高い内容について、教員等の協力のもと開講。県教育委員会との連携で実施している「**高校生を対象とした大学授業の公開制度**」を活用して、新宮高校、神島高校、南部高校、串本古座高校から生徒20名が参加。前期3科目、後期3科目、通年1科目の計7科目開講した。

前期科目「**コロナ後の世界に暮らす**」では、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて地域の暮らしや生活がどのように変わったか、メディアリテラシーや福祉、教育へのICT活用、どう対応していくのか、**レジリエンス**やコミュニケーション力などを取りあげた。オンラインで参加していた和歌山大学生と社会人がコロナ禍の生活に関して意見交換したことで世代間の暮らしの変化を学習する機会にもなった。

「**囲碁とコミュニティ創生**」では、プロ棋士に登壇いただき、囲碁の魅力や実践を通して**他者との関わり**を学んだ。和歌山大学生も授業会場のビッグ・ユーに來訪して社会人を一緒に囲碁と他者との関わりに関して学んだ。囲碁サークルの学生も授業のサポートをして社会人の学習を支援した。

「**熊野郷土学2D**」は、南紀熊野ジオパークセンターで実施。紀伊半島豪雨災害から10年。当時の地盤災害や河川災害を学び、観光振興へ向けて**地元資源をどう活用するのか**、高校生やガイド、現役教諭、地域住民等が同じ教室で学んだ。



「コロナ後の世界に暮らす」で登壇するメディア記者



オンラインで学生と意見交換する社会人



「囲碁とコミュニティ創生」授業での様子



プロ棋士に指導を受ける大学生と社会人



「熊野郷土学2D」授業の様子（南紀熊野ジオパークセンター）

寄付講義「**地域づくりの理論と実践**」では、実践者を招き地方創生における農山村の再生手法として注目を集める都市農村交流によるホスピタリティ人材の育成をテーマに掲げて理論と実践から**農山村**形成に与える影響の教育効果も検証アンケート調査も実施されている。受講した大学生の地域での**新規就農**や**地域での就業**に繋がっていると報告があり**優良な評価**を得て継続設置となっている。

寄付講義「**世界農業遺産**」では、地域産業である**梅産業、製炭業、養蜂業等**が、環境システムとして機能していることを現地演習を交えて学習している。今年度は寄付講義最終年度となり、「梅システムマイスター」に14名が登録。南部高校、神島高校の生徒9名参加。



ミツバチについて学ぶ様子（みなべ町）



高校生、学生、社会人が同じ教室で学習する様子（田辺市）



石神梅林での現地踏査の様子



森林調査の様子

1-2 主催講座・主催研修会関係

《和歌山県での実践的な観光の学びの講座、講演会を開催》

南紀熊野サテライト連携協議会主催の公開講座&受講生募集説明会オープンキャンパスセミナー前期は東牟婁地域（串本町所在：南紀熊野ジオパークセンター）にてオンラインと対面で実施。

観光学部の教員等と共に実施している南紀熊野観光塾の塾生交流会をオンラインで実施。観光事業のコロナ禍での現状を意見交換した。

みなべ町では、**野外で学習を継続**できるサイエンスカフェ「世界農業遺産フィールドカフェ」を実施。工場見学のインカムをつけて、炭窯見学などをしながら地域産業の継承と資源の活用に関して話し合った。授業関連では「囲碁とコミュニティ創生」授業後に「囲碁カフェ」を実施。大学生、社会人、小学生、プロ棋士が参加。指導対局を交えて囲碁の魅力を学んだ。

南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《R3年度後期 公開講座&受講生募集説明会》

【東牟婁地域】：南紀熊野ジオパークセンター於、オンラインと対面で実施

講演名：和歌山大学 南紀熊野サテライトキャンパスオープンセミナー

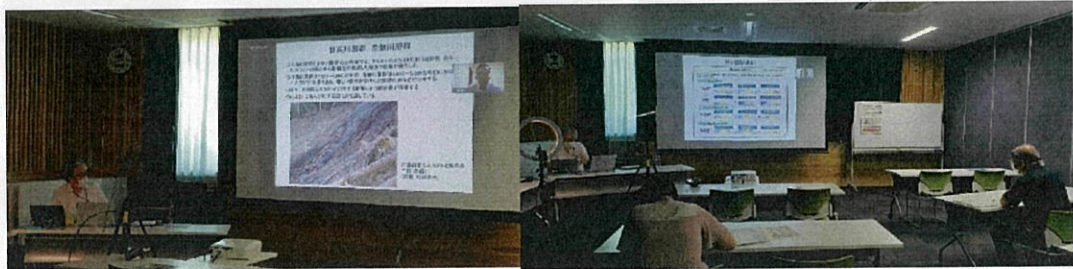
開催日：令和3年8月29日（日）13時30分～15時30分 参加63名

形態：Zoom **南紀熊野ジオパークセンター**よりライブ配信、対面でも参加可とした。

内容：オンライン記念講演「2011年紀伊半島大水害における和歌山県内の土砂災害と河川災害」

講演者：江種 伸之氏（和歌山大学システム工学部教授）

講演内容：今年で**紀伊半島大水害から10年**。紀伊半島大水害ではどんなことが発生したのか、写真などを見ながら、調査で明らかになった土砂災害について解説した。



オンラインオープンセミナー配信の様子（串本町）

1-3 南紀熊野観光塾

南紀熊野地域の観光産業従事者、地域活動者を対象として「世界のトップレベルの観光ノウハウを各地に広める観光カリスマ」山田桂一郎氏を塾長に開催。持続可能な地域経営を考えて自主的に取り組む、次世代の観光産業のリーダーになる**中核的な人材を育成、広域連携**を目指すための塾。**今期の塾は実施なし**

◆南紀熊野観光塾同窓生活動報告&交流会（オンライン開催）

概要：1期生から7期生の塾生を対象に交流会を開催。塾後の活動を報告してもらい、今後の活動に繋げる目的で実施。持続可能な地域の観光を考えて、自主的に取り組む次世代の観光産業のリーダーとなる人材育成を行うための塾として開講。交流を通して広域連携の人財交流の輪を広げることと持続可能な地域振興を推進することを期待して毎年開催している。

日時：令和3年9月4日（金）17時30分～19時00分

目的：持続可能な観光を担う人材養成と塾生同士の繋がりで広域地域の連携を目指す。

内容：観光塾生の**活動報告**と講評

塾長、講師からの講評の後、塾生意見交換会をオンラインで開催。



オンライン配信会場の様子（和歌山大学栄谷キャンパス）

1-4 サイエンスカフェ

コロナ禍で飲食を伴うカフェ企画は中断していたが、**野外でのフィールドカフェ**を新規。見学中も講師と距離をとって学べるように**工場見学用のインカム**を使用して実施。授業の実施後に行うことで講師旅費などを削減して開催。

◆世界農業遺産フィールドカフェ

名称：『世界農業遺産フィールドカフェ』～現地現場で体感型サイエンスカフェ～

主催：和歌山大学南紀熊野サテライト 共催 まちキャンパスプロジェクト

日時：令和3年12月19日（土）10時00分～16時30分 参加：10名

場所：紀州備長炭振興館、梅振興館、カフェドマンマ

目的：世界農業遺産をテーマにどのような地域活動が可能か数百年続いた産業を次世代に繋げられるかをカフェ形式で地域住民と大学生、研究者が話し合う機会を持つ。

参考：「世界農業遺産」は、梅産業、紀州備長炭などの製炭業林業、養蜂などの畜産業や環境に寄り添う産業を400年継承してきたみなべ田辺地域に認定。梅システムマイスターの育成に、和歌山大学では、寄付講義を4年間実施。育成されたマイスターと共に次世代の産業を担う若者向けのプログラムや副教材を作っている。カフェでは、世界農業遺産梅システムマイスターが、地域のガイドとして工場見学用のインカムをつけて、地域キーパーソンやフィールドを参加者や研究者に紹介。通常のサイエンスカフェと違い、教室やカフェから飛び出して、**野外のフィールドで住民、研究者、学生が楽しめる機会**の創出とした。

協力：話題提供 教育学部高橋ゼミ『幼児教育の観点から産業教育を体感化するには』、経済学部阿部ゼミ『環境配慮した資源利用商品は経済トレンドになるか』、紀州備長炭炭焼職人（炭窯と択伐林紹介）原正昭氏、まちキャンパスプロジェクト上野氏（世界農業遺産と循環システム）



世界農業遺産カフェ 新品種のいちご栽培を見学 経済学部と教育学部のゼミ生（みなべ町）



世界農業遺産フィールドカフェの様子（みなべ町）

梅振興館での説明の様子

◆囲碁カフェ

日時：令和3年11月28日（土）18時30分～20時30分

場所：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユー 研修室1 和歌山県田辺市新庄町3353-9

主催：和歌山大学 南紀熊野サテライト協力 今村九段、矢田九段（和歌山県出身棋士）

内容：授業「囲碁とコミュニティ創生」の第6回（最終回）の後に実施。和歌山県での囲碁文化の普及、囲碁の学び方など今村九段、矢田九段が話題提供。地元小学生、大学生、社会人が**プロ棋士の指導対局**を楽しんだ。感染対策のために少人数で実施。

①初心者講習（小学生は親子で参加） ②中・上級者対象の指導対局 ③参加者の交流



「囲碁カフェ」で指導対局を受ける小学生



会場の様子（田辺市：ビッグ・ユー）

【2】生涯学習部門／高大連携部門

2-1 高大連携関係／講座、セミナー

《地域課題に寄り添う取り組みに参画》

地域産業と教育を結ぶ「木育関連事業」の開催支援。

名称：「木の国わかやま木育学校」（西牟婁地域）わかやま「体験の風をおこそう」運動推進事業
龍神ヒノキのこども用椅子作り体験！

日時：令和3年10月16日（土）場所：和歌山県情報交流センターBig・u 研修室1（事前予約制）
第1部 10：00～11：30、第2部 13：00～14：30、第3部 15：00～16：30

対象：田辺・西牟婁地方小学4・5・6年生 各定員は12名（計36名）参加費無料

主催：わかやま「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会

後援：田辺市教育委員会、白浜町教育委員会、上富田町教育委員会、すさみ町教育委員会、公益社団法人和歌山県背少年育成協会 協力：西牟婁地域青少年育成市町村民会議連絡会、神島高校、和歌山大学南紀熊野サテライト、わかやま木育キャラバン実行委員会、きのくに木育ラボ

内容：**地元小学生に紀州材の良さを伝える**木工体験の経験機会を提供するために企業、神島高校、南紀熊野サテライト、地元工務店、県職員等が協力して**木育学校を開講**した。田辺市の建具店に紀州材の椅子の組み立てキットを制作いただき、参加者と組み立てた。当日運営支援に高校生も参加。参加者は、親子で木育学校を楽しんだ。



神島高校の生徒も協力 「木の国わかやま木育学校」（西牟婁地域）の様子

【3】 地域研究／本学授業講義支援／学生、同窓会活動支援

3-1 地域研究、本学授業、学生との連携・支援

《学内の研究プロジェクト、教職員の地域活動、学生活動の支援》

南紀熊野地域でのフィールドワーク、各種企画の相談や現地調整等、学生・教員の地域事業の支援。今年度は継続して木育事業や世界農業遺産関連の修了者や学生の活動を支援した。

◆世界農業遺産関連の取り組み

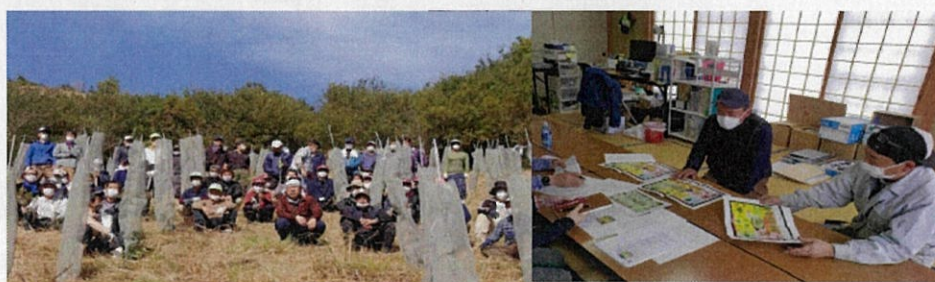
概要：世界農業遺産を学ぶ学生自主演習**クリエのチームの現地活動を支援**。受け入れには世界農業遺産**梅システムマイスター**等が協力している。今期はウバメガシの植樹や**小学生向けの親子教室**、紀州備長炭の燃焼実験、炭窯見学などを実施。活動の成果を、生協の協力で和歌山大学の学食トレイのペーパーランチシートにして周知する試行を、学生チームが2月に実施。



世界農業遺産を学ぼう「世界農業遺産」親子教室の様子（みなべ町）



学内自主演習 クリエの学生グループ現地受入支援（みなべ町）



ウバメガシの植樹やミツバチの巣箱作り、聞き取りの様子（みなべ町）

3-2 大学同窓会組織との連携

《アンケート調査や交流会を実施》

地域の同窓生の多様な業種世代の交流と連携を深めるための企画講座や提案事業等を支援。その他、情報収集として「交流シート」を配布するなど。同窓会生の自主的な運営を支援した。

【4】地域連携・産官学連携部門／地域からの相談

4-1 大学との地域の連携・協働推進

《企業や自治体、教育関係からの相談対応や事業協力、活動支援を実施》

地域課題解決に向けて学内外の連携、協働を推進。学内の地域開催フォーラムへの協力、南紀熊野ジオパーク推進協議会と連携した授業開設など実施。地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力のほか、他大学からの調査研究依頼の学内教員との調整を行った。

4-2 きのくに活性化センターとの連携

《きのくに活性化センターの会議や研究調査活動に参画》

きのくに活性化センターは、田辺、新宮両広域圏市町村組合（紀南地方全自治体）や田辺、新宮商工会議所、JA 紀南、和歌山県、和歌山大学（南紀熊野サテライト）の参画による調査研究機関として、紀南地域の諸課題に関するリサーチや相談窓口の役割を担い、地域の価値をブラッシュアップする事業を提案・協同で実践、地域と地域、地域と人を繋ぐ「場」の創出をしている。委員として参画している。

【5】運営基盤の強化／研修／広報活動

5-1 大学間連携

《県内コンソーシアム事業への参画、全国の大学教職員フォーラムなどの開催支援》

県内コンソーシアムでの研究支援を実施。和歌山大学では、地域連携に関わる全国の大学の教職員やコーディネーターの人材育成、大学と地域の発展に向けた輿論づくり、地域型サテライトへの着目を目的に地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナーを実施。今期は授業日で参加せず。

他大学との取り組みでは、世界農業遺産のつながりで宮崎大学の研究会との情報交換をオンライン研究会で実施されているものに活動報告や、同朋大学の教員からの依頼を受けて、イルカクジラの癒し効果とまちへの再来訪の効果の検証する研究調査の調整を実施したほか、和歌山大学生と神島高校、他県高校生との交流機会をオンラインで支援、教育に関するオンラインセミナーに参加。他県との取り組みの学び合いや、知見を深めた。



他県の高校との学び合いの様子



教育系のセミナーに参加する様子



観光学部が実施したフォーラムの広報支援、観光塾生へ案内 九州からも参加（那智勝浦町）

5-2 大学広報・情報提供関係

《入試広報物の配架や、学内の情報発信、わかりやすい広報媒体を作成》

大学の入試情報や学生募集要項の他、オープンキャンパス、主催講座チラシ等の配架や、南紀熊野サテライトホームページでは活動紹介を行った。南紀熊野サテライトと大学の紀南地域での取り組みを紹介。HPを新設。募集チラシにエントリーしやすいQRコードを付して学内外への情報発信強化を実施した。

5-3 会議運営・他サテライトとの交流会、和歌山大学の最前線拠点として

《各種の会議運営や、和歌山大学・南紀熊野サテライトの情報発信を実施》

- ① オフィス会議、南紀熊野サテライト連携協議会総会、幹事会、企画運営会議の運営
- ② 和歌山大学の地域の線拠点として大学案内・入試案内・各種大学事業、地域情報提供の拠点として、教育、研究事業への参画、情報発信等の活動を実施
- ③ 教育研究事業の地域での成果報告や活動成果の情報発信を実施。

論考の投稿や、経済学部OB会の会報紙面に「南紀熊野サテライト通信」として紀南の情報を発信。



南紀熊野サテライト連携協議会 総会の様子



経済学部同窓会報に紀南の情報を発信

5-4 南紀熊野サテライト運営基盤の強化に向けて

《南紀熊野サテライト連携協議会企画運営委員等と「みらい戦略四期計画」素案作成》

「地域の知の拠点」として授業開催の機会提供だけではなく、紀南地域をフィールドとした「課題解決・地域価値創造」に資する教育、研究、社会貢献を目的とした「みらい戦略四期計画」の策定準備のために、具体的な案を企画運営委員等と意見交換。地域住民、自治体職員、大学教員、同窓会、他大学教員に向けてアンケート調査の内容から現状と課題を確認したうえで、三期計画の達成項目と未達成項目の分析をして重点的な項目を策定する。地域での更なる基盤強化、情報連携を進めて活動を推進する。地域の知の拠点として、今後も各所との関係強化を推進する。

あしがき

コロナ禍でも継続して学びのニーズに応え、新しいスタイルでの学びの機会を提供してきました。皆様のご支援のおかげで、今年度もサテライト事業の展開・企画遂行、地域連携事業が多岐にわたり、さまざまな成果に繋がりました。受講生の皆様、地域の皆様、連携協議会、関係者の皆様の温かいご支援があって実施されたものです。皆様に厚く御礼を申し上げます。今後も地域の皆様と共に、様々な取り組みを実施します。更なるご支援とご協力を何卒、宜しくお願いいたします。

和歌山大学南紀熊野サテライト

本誌の趣旨は、我が国の経済発展と社会進歩の促進に資することを目的とし、国内外の経済情勢、産業動向、社会問題等について、客観的かつ公正な分析と論評を行うことにある。

目次

- 1. 経済成長と環境問題の両立 1
- 2. 国際貿易と保護貿易の現状 5
- 3. 労働市場の構造変化と雇用の安定性 10
- 4. 地方自治体の財政状況と持続可能性 15
- 5. 高齢化社会における社会保障制度の持続可能性 20



本誌の発行は、読者の皆様のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。今後とも、より充実した内容をお届けできるよう努めます。

編集長 〇〇〇〇〇〇〇
編集委員 〇〇〇〇〇〇〇
発行所 〇〇〇〇〇〇〇

〒〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇
電話 〇〇〇〇〇〇〇〇
FAX 〇〇〇〇〇〇〇〇

定価 〇〇〇円
送料 別記
購読料 〇〇〇円

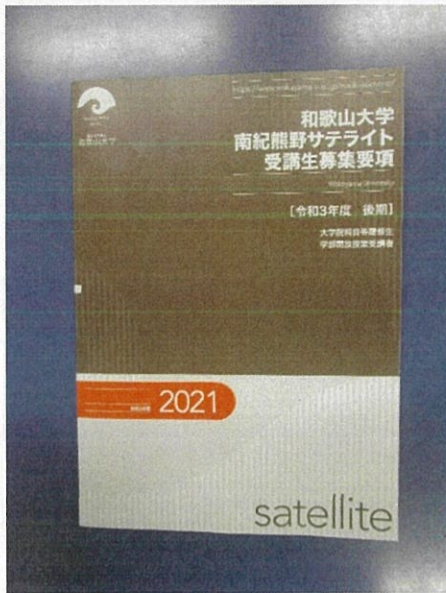
〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇

南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2021年度
2022年（令和4年）3月発行

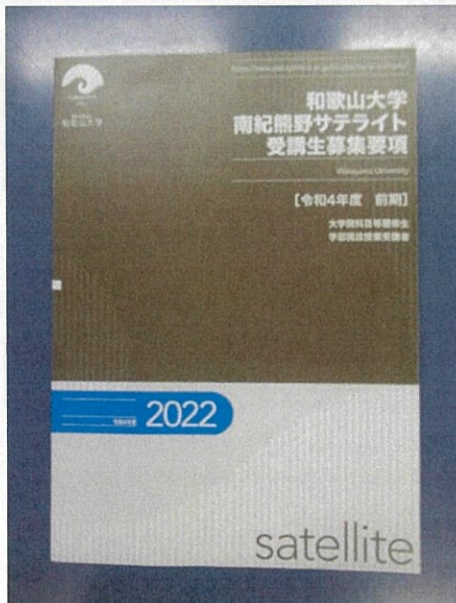
国立大学法人 和歌山大学 南紀熊野サテライト
〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町3353-9-102
和歌山県立情報交流センターBig-u内
TEL : 0739-23-3977 FAX : 3978
E-mail : nankuma@ml.wakayama-u.ac.jp
HP : <https://www.wakayama-u.ac.jp/kii-plus/nanki-kumano/>

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
LIBRARY
540 EAST 57TH STREET
CHICAGO, ILL. 60637
TEL: 773-936-3200
WWW.CHICAGO.LIBRARY.EDU

◆令和3年度後期募集要項・募集チラシ



◆令和4年度前期募集要項・募集チラシ



配布場所：ビッグユー、市役所・町役場（田辺市、新宮市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町、串本町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村）、田辺市立図書館、新宮市立図書館、各市町村公民館、商工会議所、JA 紀南各店舗、教育委員会、高校、中学校、小学校、和歌山県、紀陽銀行、新宮信用金庫、地域拠点他、和歌山大学等